

N

E

W

2022、3、17

# 直方ミニバスケットボールクラブだより



6年生、小学校卒業の日に



～これからますます重要になる“自分（たち）で考え判断し行動する力”～

コロナ禍で迎えた小学校の卒業式が終わりました。6年生にとっては、小学校高学年の2年間、まるまるコロナ禍のなかの小学校生活でした。本来なら経験できたはずの多くの教育活動が中止になったり、制限されたりするなか、ストレスのかかる学校生活を強いられました。学校生活のみならず、家庭でも自粛生活を強いられたでしょうし、外出となるとなおさらです。おとなも子どもも、これまでどれも経験したことのない生活を経験することになりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が世界的に猛威を振るっている最中、さらに世界を震撼させるできごとが起きています。21世紀のこの時代に、人間はまたも同じ過ちを繰り返しています。自分の思い通りにならなくなったら、その不満を相手のせいにして、自国民をだましながら戦争を始めていく。いったん始まると、情報統制、情報規制を敷いて、偽情報を流し続けて、自国民をだまし敵対心を煽っていく（プロパガンダ）。誤った情報で操られ戦場で血を流す多くの兵士たち。その一人ひとりに家族や親せきがいて、友人・知人がいるのに戦争を指揮している者には、そんなことおかまいなし。自分の欲望を満たすためには、自国民の命など省みることもしない。

全世界でたくさんの方が反戦・平和を訴えて行動を起こしています。ロシア人のなかにも、真実を見極め、国内外で闘っている多くの人たちがいます。日本でもウクライナの人たちを支援する動きが広がっています。各都道府県、市町村でも議会で抗議決議の採択し、抗議文（決議文）をロシア大使館等に送りつけています。世界の平和を希求する人たちに連帯し、この難局を一日も早く打開して解決に向かわせていかなければなりません。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、世界は揺れ動いています。これらの影響は、さまざまなかたちで日本にも及んでいますし、当然子どもたちにも影響は及びます。いずれも終息のめどはたっていません。またいずれも長期化する恐れやあらたな問題を引き起こす恐れすらあります（そうならないことを切望していますが）。さらに、この日（16日）の深夜、東北地方でまたも大きな地震が発生しました。マグニチュード7.4、宮城県・福島県で最大震度6強。津波、大規模停電、断水等が発生しました。

このような時代を生きてぬいていかなければならない子どもたちです。世界は、社会は、日に日に変化しています。私たちおとなが経験したことのない時代を生きていくのが今の子どもたちです。私たちおとなでさえどうすればいいのか、その正解を持ち得ない問題ばかりです。それでも自分の進む道を決めていかなければなりません。思春期を迎え、青年期を経て成人し、社会に出ていきます。自分で考え

判断し行動する力（自己選択と自己決定の力）は必須です。もちろん自分だけで難しいときは、頼れる人、家族、友人に相談し、いっしょに考えてもらうことが必要です。そのためにも日頃からの人とのつながりは大切です。

社会は、違いをもったさまざまな人たちで形成されています。いっしょに生活していれば、問題が生じることがあるのは至極当然なことです。大切なのは、その問題の解決のしかたです。（私も含めて）おとなどうしは、いったん感情的になると、なかなかそれをおさめることができず、問題の解決を困難にしてしまうことがあります。当然、関係は切れてしまいます。その延長線上にある最悪な状況が、今のロシアとウクライナの間で起きていることでしょう。日本も過去、同様の苦い歴史を刻んでいますね。

しかし子どもは違います。子どもは感情的にもなりますが、それをおさめることも得意です。おとなには難しいですね。おとなはその代わりに、自分で感情をコントロールし、話し合いで解決する術（スベ）を成長の過程で学び身につけています。それでも親として、わが子のことになれば感情的になりがちです。わが子を愛するが故ですが、やはり客観的な視野で問題をとらえることは難しくなります。一方向の情報、断片的な情報しか得ることができにくく、客観的・総合的な情報による判断ができないからです。だからケースに応じて、それが可能な立場の人に問題の解決を委ねることが大切です。

子どもは子ども時代に、子どもどうしの世界で、楽しいことも、悔しいことも、嬉しいことも、はらのたつことも、さまざまに経験しておくことが重要です。その過程でおとなになったときの問題解決力とスキルを身につけていきます。その意味では、トラブルも貴重な体験の一つです。しかし、近年は、おとなの介入が早すぎたり、または介入のしかたがまずかったりすることで問題がこじれてしまい、関係の修復が困難になることも少なくありません。

子どもにはおとなが持ち得ない力があります。解決のしかたは、おとなの理屈にはあわないときもありますが、子どもたちなりに問題を処理する力があります。その力を引き出して子どもどうしが問題を消化していく道筋をしつらえていくことが、私たちおとなの役割です。問題に応じて、客観的かつトータルな情報をつかむことのできる立場の人がその役割を担うことが重要です。家庭でのことは親、学校でのことは先生、クラブでのことは監督というように。ただ、問題によっては、その立場の人では、うまくいかないときがあります。児童虐待や体罰などの問題は、その例です。そのときは、双方につながることで信頼できる立場の人に相談することが賢明です。

問題解決の基礎となる力やつながりを子ども時代に育ておくことが必要です。直方クラブの卒部式にまで至ったメンバーは、少なからずその基礎力を身につけてくれているのではないかと期待しています。卒部後も時々体育館に寄ってくれたときの立ち振る舞い、後輩の相手になりながらアドバイスをおくってくれている姿、高校や大学に進学が決まったことを報告しにきてくれる姿などから、基礎づくりの成果を確認しています。

子どもの育ち（学びとつながり）を育む場として、学校教育はもとより、クラブ活動等の社会教育もとても重要な場です。直方ミニバスケットクラブでの出会いとそこでの活動、そして育まれたつながりが、今後一人ひとりのなかで生きてくることを信じています。

